

(臨床研究に関する公開情報)

江南厚生病院では、下記の臨床研究を実施しております。この研究の計画、研究の方法についてお知りになりたい場合、この研究に検体やカルテ情報を利用することをご了解できない場合など、お問い合わせがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。なお、この研究に参加している他の方の個人情報や、研究の知的財産等は、お答えできない内容もありますのでご了承ください。

[研究課題名]

ラムシルマブ+アルブミン懸濁型パクリタキセル併用療法患者における好中球減少発現に関するリスク因子の探索

[研究責任者]

半田市立半田病院 薬剤科 永松秀紹

[分担研究者]

江南厚生病院 薬剤部 小玉幸与、永田彩加

[研究の概要]

2018年1月に「胃癌治療ガイドライン」が改訂され、新たに二次治療としてRAM+nab-PTX 併用療法が条件付きの推奨で記載されました。この試験の中で、好中球減少 grade 3 以上が76.7%に認められています。実臨床において、好中球減少発現に関するリスク因子を明らかにすることは治療を長期継続する上で有意義であると考えられます。しかし、RAM+nab-PTX 併用療法についての報告はありません。

そこで、本試験の目的として RAM+nab-PTX 併用療法の好中球減少発現に関するリスク因子について調査を行い、好中球減少を予測する臨床的指標を新たに提示することです。

[研究の方法]

●対象となる患者さん

当院にて2018年1月1日～2019年5月31日の期間内に当院および共同研究機関においてRAM+nab-PTX 併用療法による治療を受けた方

●利用するカルテ情報

年齢、性別、身長、体重、体表面積、Performance status、合併症、喫煙歴、飲酒歴、原発部位（胃もしくは胃食道接合部）、抗ヒト上皮増殖因子受容体2型(HER2)の過剰発現の有無、RAM+nab-PTX 療法開始時の転移巣の部位、腹水の有無、腹膜播種の有無、治療歴（手術歴、化学療法歴）、前治療における発熱性好中球減少症の発症歴及びGrade3～4の好中球減少発現歴、RAM+nab-PTX 療法の開始日、中止日、中止理由、用量強度、治療期間中のRAM+nab-PTX 併用療法の投与量および投与間隔、減量理由、併用薬、関連する臨床検査結果

[個人情報の取扱い]

この研究で得られた情報は、お名前、住所など、患者さんを直接同定できる個人情報は削除してから、研究事務局に提出いたします。そして、他の病院から集められた情報とともにまとめられ、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

[問い合わせ先]

●研究事務局

江南厚生病院 薬剤部

小玉幸与（こだまさちよ）、永田彩加（ながたあやか）

電話 0587-51-3333 FAX 0587-51-3337